



田口理穂 * ドイツのエコあれこれ No. 18

33年前に出版された「みえない雲」

パンゼヴァングさんの自宅前にて



今年もまた3月11日が巡ってきた。
原発事故を題材と

した若者向けのドイツの小説「みえない雲」をご存知だろうか。今年1月、91歳で死去した作家グードルン・ハウゼヴァングさんが1987年に出版した本で、原発事故後の世界を描いた。ドイツでは学校の指定図書にもなっており150万冊以上のベストセラーとなり、日本語にも翻訳されている。

2015年にハウゼヴァングさんの自宅を訪問したことがある。当時87歳だったハウゼヴァングさんは閑達とし、壁には著者とその翻訳版がずらりと並んでいた。「この1年で3冊出版したのよ」と本を見てくれたほか、絵描きになるか作家になるか迷っていた頃に描いたという絵本の下書きはすぐに出版できそうな出来栄えだった。

ハウゼヴァングさんの偉大なところは、常に物事を大局的に捉え、かつ自分の意志を貫く実行力を備えていることである。ナチス崇拝者だった父の影響を受けて育ち、17歳で敗戦を迎えた。その後ヒトラーが何をしていたか知り、大きなショックを受け、何事も自分で考えて判断しなければと痛感した。

南米に興味があったがお金がないので、ドイツ語教師となって南米に渡る。一時帰国を挟んで通算12年を南米で過ごし、独裁政権と貧困を肌で知った。ド

イツに戻って小学校教諭となり、シンクルマザーとして息子を育てながら執筆を続けた。

「世の中には悲惨なことがたくさん起こっているのに、子ども向けの小説はハッピーエンドばかり。子どもを一人前扱いしていないからだ」と言い、世の中の辛い部分を積極的に取り上げた。

冷戦下の1983年に書かれた小説「最後の子どもたち」は原爆投下後の様子を書いた。全世界が破綻し、食べ物を巡って殺し合いがあり、被ばくの影響で多くの人が死んでいく。理不尽かつ悲惨極まりない光景を少年の目線で綴るこの小説は、原爆の恐ろしさを何よりも物語っている。

前述の「みえない雲」では被ばく者への差別や周囲の無理解についても書いていて、現在にも当てはまる。子どもや青少年向けの小説を中心に100冊以上の本を著し、ユダヤ人殺戮や人種差別、ファシズムをテーマにした作品も多い。福島原発事故の際には被災者にも心を寄せた。

「最後の子どもたち」(1984)、「みえない雲」(1987)、「そこに僕らは居合わせた」(2012)、「片手の郵便配達人」(2015)の4冊を翻訳した高田ゆみ子さんは、ハウゼヴァングさんについて「テーマの変遷はあれど、共通していたのは①社会政治環境問題を自分の日常生活の先にあるものとして捉え、そこから逃げない姿勢、②置き去りにされる読後感でした。②については「後味が悪い」とか「不安を煽る」

というような批判的表現をする人もいましたが、それこそがハウゼヴァングの真骨頂、「自分で考えなさい」というメッセージが貫かれていたと思っています。

前者2冊ともハッピーエンドではなく、その先のことやここに描かれたような事態に陥らないようにするには皆が自分の頭で考えなくてはならないと諭されます。さらに後者の2冊は、ナチズムの時代を過ごした娘時代と向き合ったもので、自ら思考せずただ従う教育を施された世代から、どのような事態を許したことへの強烈な反省と後の時代を生きる者に対する警告が伝わってきます。」と語る。この4冊、日本でも多くの人に読んでほしい。

ハウゼヴァングさん訪問したとき別れ際に、庭になっていた小さなリンゴをいくつもらつた。そのひとつをドイツ人の友達にあげたら「学校で読んでいた本の著者の庭のリンゴとは」と感激していた。リンゴを手渡してくれたハウゼヴァングさんの手の温もりを、今でもときどき思い出す。

ごみかんドイツ特派員 田口 理穂

AKIRA の 成長記録

7年生（日本でいうと中1）の明のクラスでは、英語の先生が嫌われています。ひいきしたり、理不尽なことで生徒を怒ったりする。成績の評価も厳しく、他の教科と比べてなかなかよい成績が取れません。クラスで話し合った結果、明を含む生徒三人が先生と話し合うことになりました。

先生はオープンに接してくれ、生徒たちの言い分をだいたい理解してくれたらしい。一方、生徒達の授業態度が悪いなど批判もありました。

担任は英語の先生の評判をきいていますが、口を挟まず、生徒たちが自ら解決するよう促しました。「これか

ら社会に出れば、合わない人、気に入らない人はたくさんいる。そういう人たちとどう接するのか自分で学ばなければならない」との考え方からです。先生が間違っているれば、生徒が正すことができる。少なくともそのような機会が保証されているのが民主主義です。

その後、英語の先生の態度は少し改められたようですが、明の成績は2段階下がりました（日本の通信簿に例えると5だったのが3に）。テストと授業態度の半々で評価されるのですが、明は納得いかない様子。けれど世の中には不公平なことが多々あり、学校も社会の縮図だからこういうことは起こります。何にせよ受験はないし、成績が少々悪くてもどうってことありません。